

産業振興と地域振興に寄与する学術研究の「知の拠点」整備構想(案)

(旧飯田工業高校の利活用方策案)

長野県飯田市

0. これまでの経過と本資料の位置付け

旧飯田工業高校の利活用については、平成 27 年 3 月 30 日に南信州広域連合、南信州広域連合議会及び南信州飯田産業センターの連名で「産業振興と学術研究の知の拠点」として活用したい旨の要望書を長野県知事宛てに提出し、知事からは、具体的な検討を進めて改めて相談して欲しいとの意向が示されたところ。本構想(案)は、具体的な利活用方策について、広域連合・広域連合議会並びに飯田市議会への説明資料として飯田市が作成したものである。

1. 基本的な考え方

リニア中央新幹線長野県駅に近接する旧飯田工業高等学校を利活用し、南信州広域連合の第 4 次広域計画に掲げるリニア時代を見据えた将来像の実現や、国土のグランドデザイン 2050 に掲げる「ナレッジ・リンク」の一翼を担うとともに、リニアバレー構想の実現に資する**産業振興と地域振興に寄与する学術研究の「知の拠点」**を整備する。

2. 整備の概要

- 「知の拠点」には、産業振興と地域振興に寄与する様々な「知」を集積できる機能を整備することにより、多様な主体(市民・研究者・企業・団体等)が集い、交流し、協働して教育・研究・創造などの様々な取り組みが実践・展開され、知識・経験・情報が集積、発信される拠点として活用する。
- また、活力ある地域経済の実現に向けて、「人的ネットワーク」をベースにした研究開発の拠点として、高等教育機関や試験・研究機関など新たな価値を創り出す機能を集積するとともに、企業・大学・研究機関・金融機関・行政などの多様なプレーヤーが相互に関与し、地域にダイナミズムを創発できる拠点づくりを進める。
- 「知の拠点」に地域産業の中核的な支援機関である南信州・飯田産業センター、工業技術センター、飯田 EMC センターと学術研究の核となる信州大学航空機システム共同研究講座を集積することで、航空機システムという新たな分野の拠点を創り出し、地域産業における研究開発の動きを活発化し、産業の高度化、高付加価値化を実現する。
- また地域づくりの「知」の集積、創造・発信拠点機能を整備することにより、地域の独自性や強みを磨きつつ新たな価値を創発し、ブランド力が高まることで南信州地域が世界からその価値が認められ、多くの人財が共鳴して集まる地域となり、小さな世界都市や多機能高付加価値都市圏の形成に寄与する。

3. 整備方針、整備内容及び期待できる効果

■整備方針1 「知の拠点」の機能を高める。

整備項目	具体的な内容及び期待できる効果
①大学などの教育研究機能の活用 ○信州大学航空機システム共同研究講座の開設 ○大学サテライトの設置	・地域内の航空関連企業と信州大学航空機システム共同研究講座による共同研究により、新たな製品の開発が進み、航空機産業の更なる集積が期待できる。また、将来的には信州大学南信州キャンパス構想もあり、当地域における高等教育機関の設置に期待ができる。 ・想定される大学サテライトは、信州大学（航空機システム共同研究講座、ものづくり高度人材育成「社会人大学院コース」）、協定締結大学であり現にサテライト機能を設置している大学が考えられる。 ・大学サテライトが設置されることで、地域と大学が連携しやすい環境や、大学研究者が長期的、専門的に地域に関わることができる環境が形成され、南信州地域における教育・研究活動などが更に活発に展開されることが期待できる。
②大学研究者のネットワークの拠点づくり ○大学研究者等の研究室の設置	・リニアを活用して大都市圏（東京・名古屋・大阪）の大学研究者等が極めて移動時間ロスのない中間的地点で研究活動に取り組めるようになり、大学サテライトに関わる研究者の研究室のほか、学輪 IIDA に参画し、当地域を拠点に活動している研究者の研究室の設置が想定される。 ・複数の大学の研究室が設置され、大学の研究室間の連携が促進されることにより、新たな人財の交流が活発になるとともに、地域外から新たな人財が誘導され、更なる知の集積が期待できる。また大学とのネットワーク形成、拠点化により、地域への知や人財の流入、集積化が図られ、産業振興や地域振興に専門的な知見を活用しやすい環境が形成される。
③世界に通ずるグローバルな高等教育機関の設置 ○デザイン系大学院大学の設置 ○信州大学南信州キャンパス（信州大学航空機システム研究センター）の設置	・世界で活躍できる高度なデザイン力を持った人材を育成し、地域内外で活躍してもらう。こうした実績により、地域外から人財の誘導を図り、デザイン関係者の定着を進め、企業のデザイン力を高める。大学院大学の設置主体、設置時期、資金計画、学科やカリキュラム、定員など詳細については検討中である。 ・アジア NO.1 航空宇宙産業クラスターにおける航空機システム開発の拠点形成に向けて、信州大学と連携して信州大学南信州キャンパス構想の実現に向けた取り組みを進める。

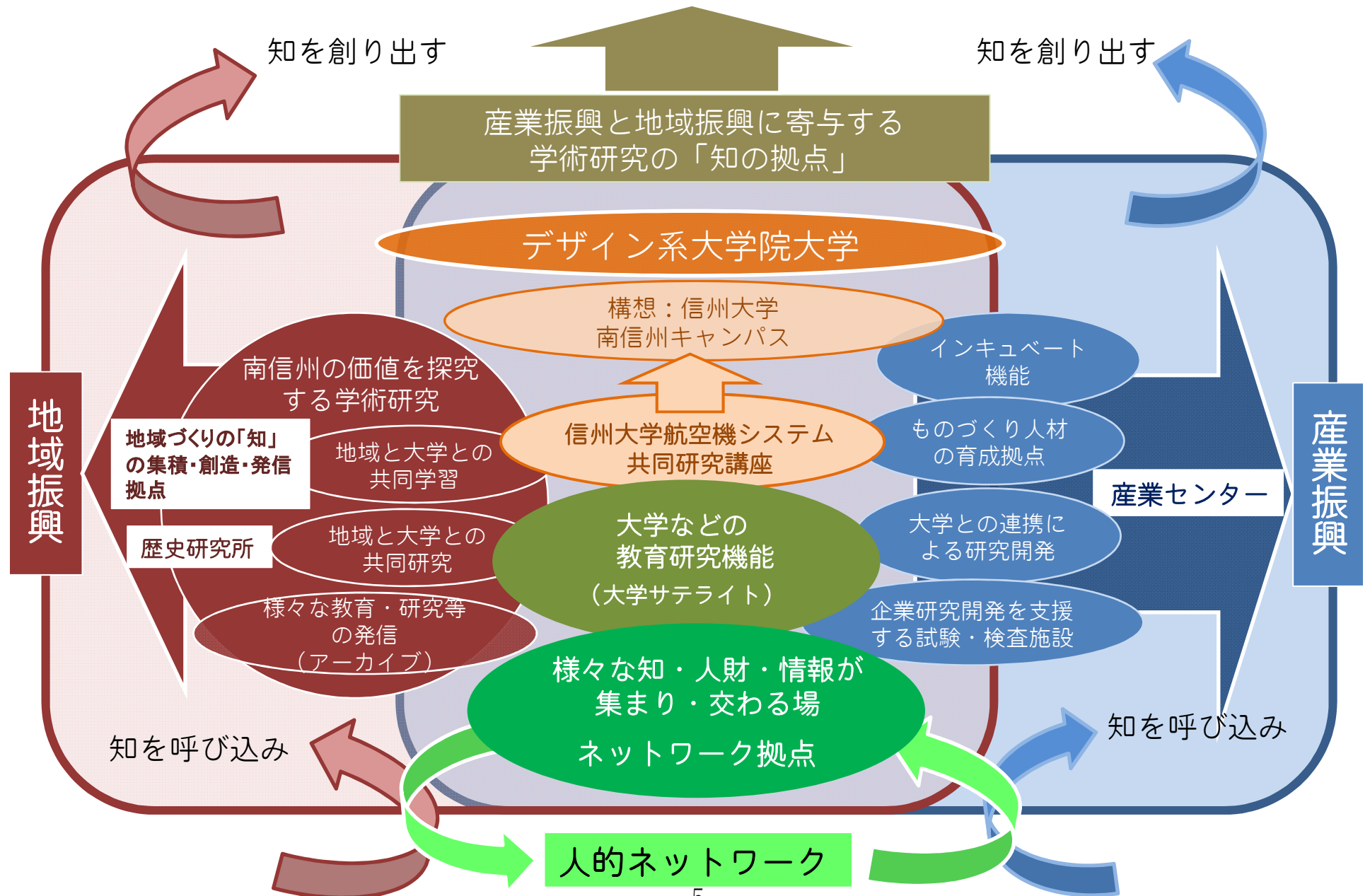
■整備方針２ 産業振興の知の拠点 ―知の拠点を核として産業振興の進化を目指す―

整備項目	具体的な内容及び期待できる効果
南信州・飯田産業センターの機能拡充・移転	・地域の産業振興には学術研究の分野との連携が必要不可欠である。信州大学航空機システム共同研究講座の開設が計画されており、企業との共同研究による新技術・新製品の開発から事業化に向けて期待が高まっている。しかし、航空機産業はじめ健康医療、食品産業など多様な産業クラスターの活動支援には、今の産業センター施設では手狭であり、設備が老朽化・陳腐化しており不十分となっている。また、インキュベート機能や人材育成機能の拡充も必要となってきた。 ・場所としてはリニア開通を見据えるなかで、リニア駅から近く、スマートインターからの接続等交通の便に恵まれた旧飯田工業高校が適地である。 ・南信州・飯田産業センターが機能拡充・移転することにより、南信州地域の産業ネットワークが強化されるとともに、リニア時代には、全国との結びつきが容易になり、大学との連携による研究開発機能や人材育成機能が強化され、航空宇宙産業やメディカルバイオなど、地域の将来を担う産業振興に向けた研究開発や人財の育成が進み、新たな技術や産業が創発され、雇用を産み出すとともに、既存産業にも様々な刺激を与え、高度化や変革に寄与できる。
① 企業の研究開発を支援する試験・検査施設の拡充 ○工業技術センター・EMCセンターの機能拡充	・地域における試験・検査機器の整備拡充は喫緊の課題であるが、両センターの既存施設での機能拡充は物理的に困難である。移転機能拡充により地域企業の利便性の向上とともに、新製品開発のための活用が期待される。また、EMCセンターについては国際規格に適合させることにより、新たな分野での利用が促進され、新分野での企業誘致も可能となる。
② 大学との連携による研究開発機能の強化	・信州大学航空機システム共同研究講座の開設により、大学と企業との共同研究が進み、大学の知見を活かした新たな技術の開発が促進される。さらに、機能拡充する試験・検査機器の活用により、企業のコスト競争力が高まり、新製品の高付加価値化が実現する。
③ インキュベート機能の強化 ○新たな事業の創造、創業を支援するセンターの設置	・充実した専門人材が、起業や第二創業に向けた取り組みを支援する。リニア開通を見据える中で、将来的に地域内への定着・操業することで雇用の確保につながる。当地域に不足する研究開発型企業の立地を呼び込むことも期待できる。
④ ものづくり人財の育成拠点整備	・飯田産業技術大学の内容を充実させ、様々な分野で高度な技術を持った人財の育成を進める。航空機分野では、信州大学航空機システム共同研究講座により企業との共同研究を通じてシステム装備品に精通する中核人財を育成する。当地域の産品の高付加価値化には、高度な技術と高いデザイン力を持った技術者の育成が求められ、そうした人財を知の拠点の機能を活用して育成する。

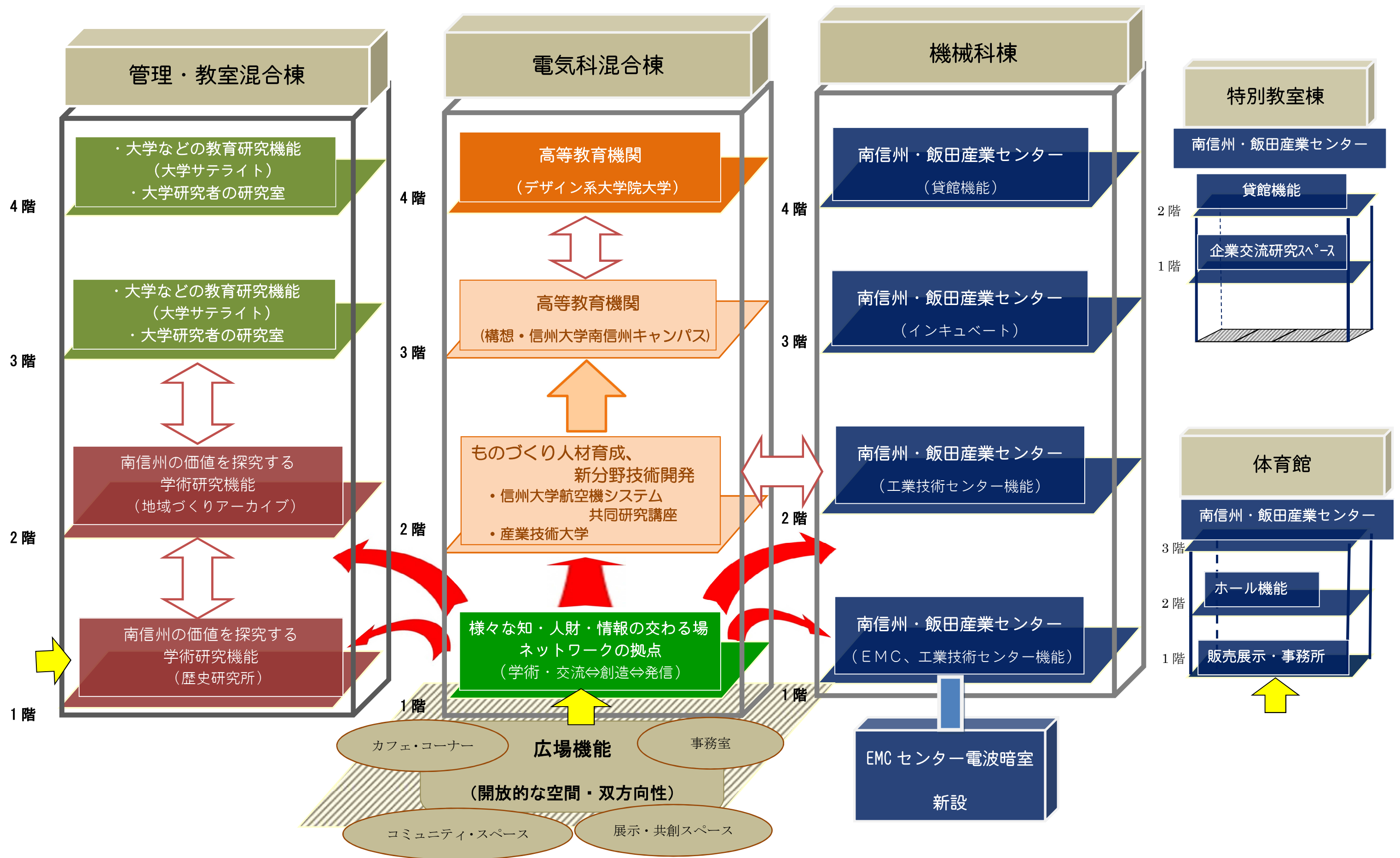
■整備方針 3 地域振興の知の拠点 ―地域振興の知の拠点として、南信州地域の価値を探究・発信し、新たな知を呼び込み
知が地域と結びつくことで南信州地域の価値を高める―

整備項目	具体的な内容及び期待できる効果
①南信州の地域づくりに関する「知」を集積・創造・発信する拠点 ○南信州の地域づくりや大学研究者の研究成果等のアーカイブ機能の設置	・地域づくりに関する調査、研究の蓄積と発信（アーカイブ化）により、更に多くの大学研究者や学生を南信州地域に呼び込み、ネットワーク拠点を介して地域とつながり、更なる調査、研究・実践活動が展開されることで、南信州地域が「持続可能な地域づくりのモデル」として、地域内外から認知され、南信州地域の価値の高度化や明確化につながる。 ・このことにより地域の魅力やブランド力の向上、発信が図られ、交流人口や定住人口の増加が期待できる。 ・例えば、南信州地域が「子育てしやすい地域」「安全・安心に暮らせる地域」として、大学の専門的な調査研究を通じて客観的な根拠を以て発信することができれば、地域の魅力発信となり、将来的なＩターン者の増加につながることも期待できる。また地域の価値（固有性・多様性）を明確にすることで、地域に愛着と誇りを持った人財の育成やＵターン者の増加にも通ずる。 ・また、多くの資料・図書等が集積することで人が集まり、研究者同士の交流、同じ課題を共有する市民のまとまり、研究者と市民との交流も生まれ、「知」の拠点機能が更に高まる。 ・こうした活動を通じて南信州の地域づくりに関する「知」を集積・創造・発信機能を高めることで、より多くの知や人財を地域に呼び込む磁力を高められる。
②南信州の歴史・文化・風土など、地域の価値を探究する学術研究の拠点 ○歴史研究所の移転	・歴史研究所は、既に南信州地域をフィールドとした歴史の調査や地域住民との学習活動を実践しており、古文書の歴史や非現用文書の記録を一括して整理している。これらの資料は、研究者の研究に留まらず、「まちづくりに必要な知識・情報等」も含んでおり、利用者の活用により「史料をいかす」「歴史をさぐる」「知識をひらく」等に展開が出来る。この活動がより活発化することにより「地域住民が担うまちづくり」を側面的に支援することができる。

第4次広域計画に掲げるリニア時代を見据えた将来像や
ナレッジ・リンクの一翼を担うモデル地域の実現



旧飯田工業高校後活用 （産業振興と地域振興に寄与する学術研究の知の拠点）



【旧飯田工業高等学校の施設】



○所在地：飯田市座光寺 3349-1

○土地：29 筆 46,705.47 m²

○施設竣工：平成元年

○建物：14 棟 14,489.36 m²